

## 栃木県審査会優秀賞

【人間の Well-being 「水」】 栃木県 栃木県立矢板東高等学校附属中学校 二年 佐藤 姫香

人間が生きていく上で、「水」は欠くことの出来ないものである。水でできている海は、地球の面積の約七割を占めていて、あらゆる命の源とされる。地球上の水は海から蒸発した水が雲になり、雲の一部が雨や雪となり地上に降り、陸地にしみ込んで地下水や川となり、再び海に戻るという循環を繰り返している。このようにして、私達の生活している環境は長い期間を経て、作られてきた。

しかし、人間は水や自然が無限であると思いつき込み、いつしか人間のためだけに海を埋め立てたり、森林を伐採したり、生産によって二酸化炭素を発生させたりしている。このように人間は、地球の自然に過剰に手を加えてしまったのではないかと思う。その結果、地球温暖化を引き起こし、大雨や台風といった異常気象が頻発し、世界各国で大規模な気象災害が発生してしまっている。洪水被害、干ばつ被害、どちらも水の被害である。

日本に生まれ、日常生活を送る中で水に困ったことはあるだろうか。水が使えないとなったその時に初めて水の大切さ・ありがたみを実感する。工事のための断水でさえ、必要な水の確保と普段のように何も気にせず水を使うことができないといった不安で動揺したことを覚えていた。その時は、トイレの水を溜めたり、飲み水を冷蔵庫に用意したりした。時計を何度も見て時間の過ぎるのを待った。そして、夕方には復旧し、いつも通り入浴や洗面ができた。「短時間でも普段通りに水が使えないというのは、なんて不便なんだ。」と心から思った。予告される断水でこのような状態なのに、災害時には予想以上に困惑してしまっただろう。

近年、世界で誰も取り残さないための目標、SDGS（持続可能な開発のための十七の国際目標）が掲げられた。この中にも、水に関する事項が挙げられている。「安全な水とトイレを世界中に」や「海の

豊かさを守ろう」等である。

全ての人が品質管理された安全な水と衛生的な環境を利用できるようにし、限りある水資源を将来に渡って使い続けることができるような取り組みをすすめるとある。

調べを進めていくと、「節水」も重要だが、「森を守ること」も重要だと分かった。ただ木をたくさん植えるのではなく、間伐や枝打ちをして日光が下草に届き豊かな大地をつくるのが重要になる。人間の手で伐採したのなら人間の手で植え、管理し、育て、生態系を守る環境保全をしなければならぬ。そうしなければ、ますます自然災害は起こりうるばかりだと思ふ。自然災害はもしかしたら、過去から現在において積み重なってできた人工災害であり、ある意味、自業自得ではないかとさえ考えてしまう。

これからの私たちは未来のために何をしなければいけないのか。一人一人、何を念頭におくべきなのか。日本政府は「成長戦略実行計画」に「国民が well-being を実感できる社会の実現」をあげている。世界に比べると遅いかもしれないが、今から実現に向けてすすめるべき事案だ。厚生労働省は、「個人の権利や自己実現が保障され、身体的、精神的、社会的に良好な状態にあることを意味する概念」だとしている。

今後の「水」との関わり方について、私は改めて考えた。先進国では、節水し、浄水の技術の向上と雨水以外から水を作り出す研究に力をいれるべきと考える。発展途上国では、地殻調査の実施と上下水道の整備、技術者の養成が必要だと考える。これが、これからの地球上に住む人間全ての「水」に対する「幸福」なのではないかと思う。私達は未来のためにできることを世界全体で考え、実行しなければいけない状況に直面している。